



# 2023年3月期 第2四半期

## 決算説明資料

西華産業株式会社

(東証プライム市場 証券コード8061)



皆様、こんにちは。社長の櫻井でございます。

皆様方には、平素より西華産業にご関心をお寄せ頂き、  
また、決算説明会にご出席たまわりまして、誠にありがとうございます。  
でございます。

2023年3月期 第2四半期 決算説明会につきましては、  
説明会の開催に加え、後日動画の配信もさせて頂くことに  
いたしました。

本説明会および動画を通じまして、当社について  
ご理解を深めていただければ幸いに存じます。

それでは、始めさせていただきます。

# CONTENTS

**01**

2023年3月期  
第2四半期  
連結決算概要

**02**

2023年3月期  
連結業績予想

**03**

トピックス

★参考資料★

今回の決算説明では、ご覧の項目について説明いたします。



# 01

## 2023年3月期 第2四半期

### 連結決算概要

それでは、2023年3月期 第2四半期の連結決算概要からご説明いたします。

## 2023年3月期 第2四半期 連結決算概要

	2022年3月期 2Q累計実績	2023年3月期 2Q累計実績	増減率 (前年同四半期比)
取扱高	69,027 百万円	<b>68,866</b> 百万円	△0.2 %
売上高	40,452 百万円	<b>40,452</b> 百万円	△0.0 %
営業利益	1,304 百万円	<b>1,444</b> 百万円	+10.7 %
経常利益	1,315 百万円	<b>1,217</b> 百万円	△7.4 %
親会社株主に帰属する 当期純利益	698 百万円	<b>844</b> 百万円	+20.9 %

	2022年3月期 2Q累計実績	2023年3月期 2Q累計実績	増減率 (前年同四半期比)
受注高	41,667 百万円	<b>46,468</b> 百万円	+11.5 %
受注残高	62,141 百万円	<b>64,772</b> 百万円	+4.2 %

4 ページ目をご覧ください。

こちらは連結決算概要です。

新型コロナウイルス感染症の影響や資源・原材料等の高騰、また急激な円安の進行等により先行き不透明な状態が続きましたが、

当社グループの2023年3月期 第2四半期の業績は、

取扱高 688億6,600万円、  
 売上高 404億5,200万円  
 営業利益 14億4,400万円  
 経常利益 12億1,700万円  
 当期純利益 8億4,400万円

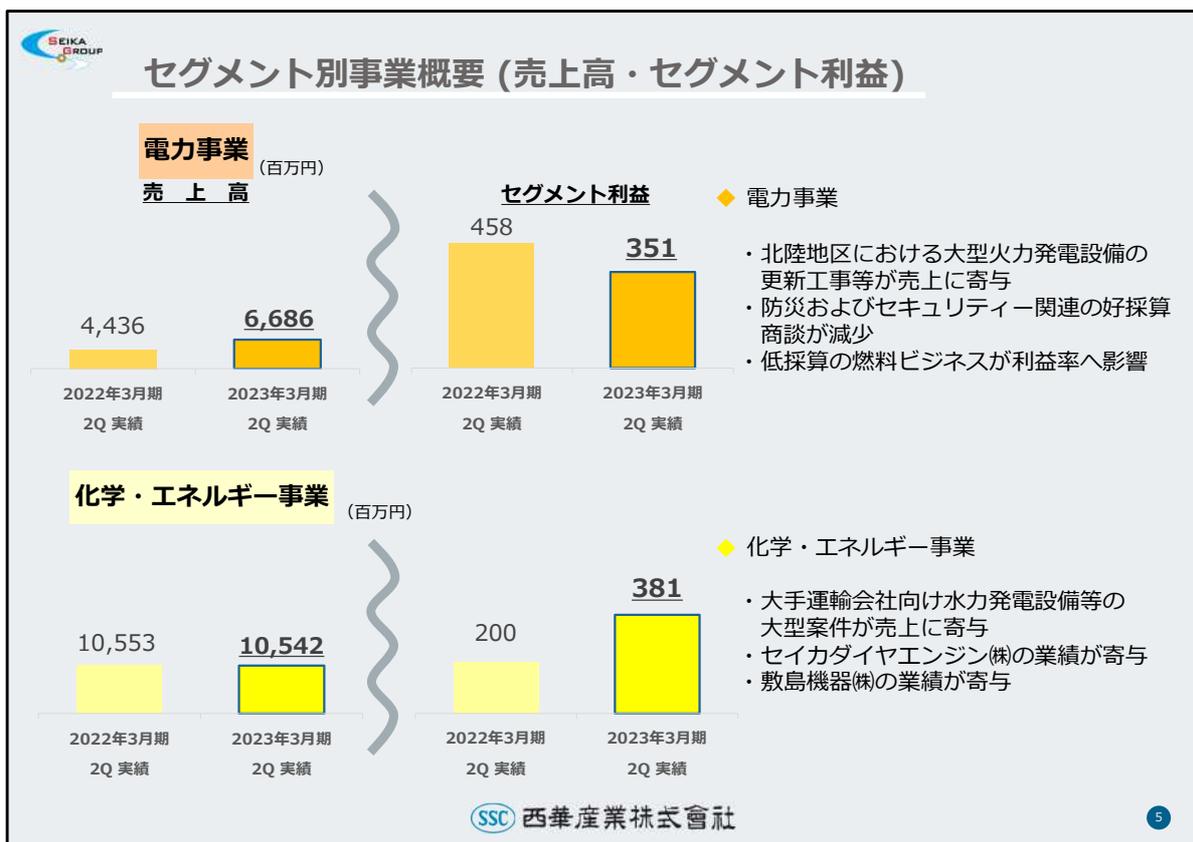
となりました。

持分法投資損失により、経常利益は減少したものの、政策保有株式等の売却益により、当期純利益は増加いたしました。

また、受注状況についても

受注高 464億円6,800万円  
 受注残高 647億円7,200万円

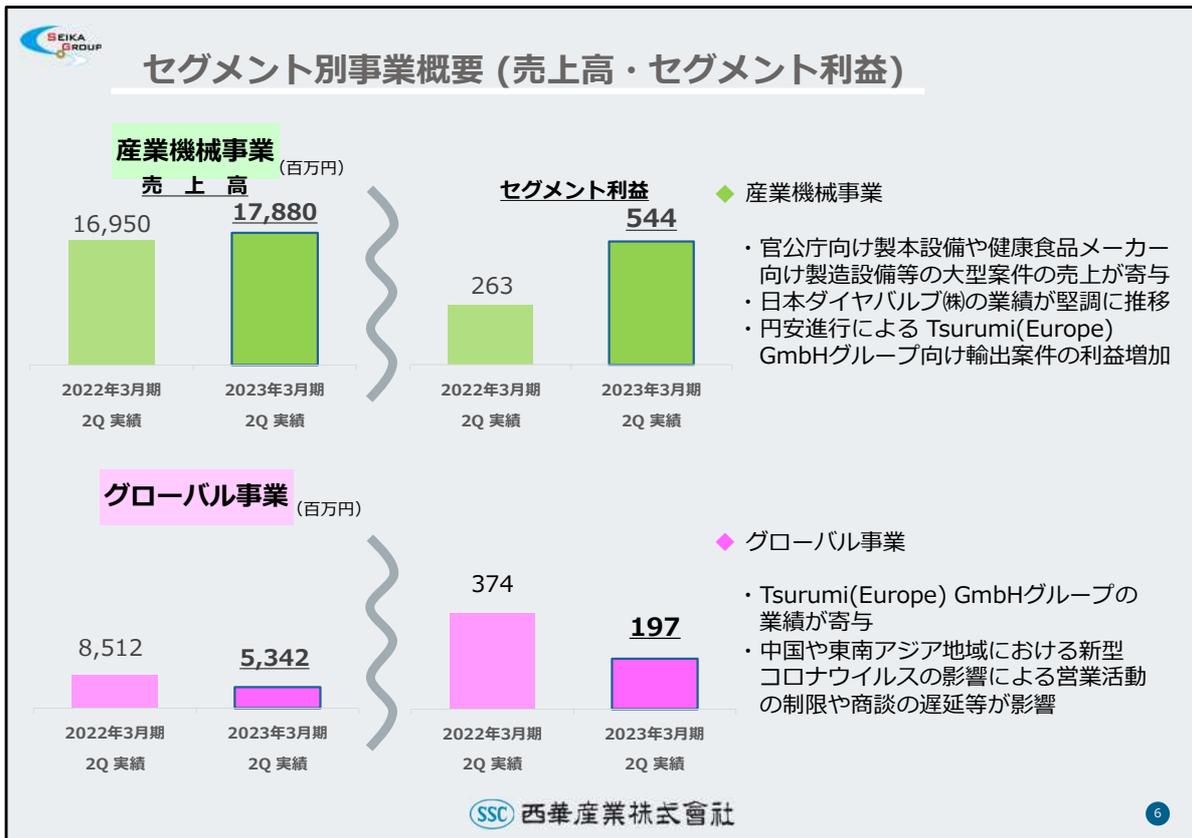
と、いずれも前年同期と比較し、増加いたしました。



次に、セグメント別売上高、セグメント利益の実績はご覧の通りです。

電力事業は北陸地区における大型火力発電設備の更新工事や、スポット商談ではありますが、燃料ビジネス等があり売上高は大幅に増加したものの、防災およびセキュリティー関連の好採算商談が減少したことや燃料ビジネスが低採算であった影響もありセグメント利益は減少いたしました。

化学・エネルギー事業は、大手運輸会社向け水力発電設備等の大型案件が売上に寄与し、前期並みの売上を確保しました。また、子会社であるセイカダイヤエンジンや敷島機器の業績が寄与し、セグメント利益は増加いたしました。



産業機械事業は、官公庁向け製本設備や健康食品メーカー向け製造設備等の大型案件が売上へ寄与するとともに、子会社の日本ダイヤバルブの業績も堅調に推移し売上高は増加いたしました。

また、日本からの欧州の Tsurumi(Europe) GmbHグループ向け輸出取引が円安により利益が増えたこと等から、セグメント利益は大幅に増加いたしました。

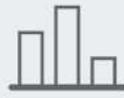
最後にグローバル事業は、Tsurumi(Europe) GmbHグループの業績が堅調に推移したものの、中国や東南アジア地域における新型コロナウイルスの影響による営業活動の制限や商談の遅延等により、全体的に売上高、セグメント利益は減少いたしました。

## セグメント別事業概要

(百万円)

	売上高			セグメント利益		
	2022年 2Q累計 実績	2023年 2Q累計 実績	増減額	2022年 2Q累計 実績	2023年 2Q累計 実績	増減額
電力事業	4,436	<b>6,686</b>	+2,250	458	<b>351</b>	△106
化学・エネルギー 事業	10,553	<b>10,542</b>	△11	200	<b>381</b>	+181
産業機械事業	16,950	<b>17,880</b>	+929	263	<b>544</b>	+280
グローバル事業	8,512	<b>5,342</b>	△3,169	374	<b>197</b>	△176
合計	40,452	<b>40,452</b>	-	1,296	<b>1,475</b>	+178

こちらは、先程ご説明しましたセグメント毎の売上高、利益の一覧表であります。



# 02

## 2023年3月期 連結業績予想

続きまして、2023年3月期の連結業績予想について  
ご説明いたします。

## 2023年3月期 連結業績予想

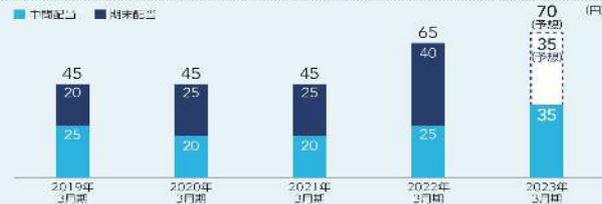
	2023年3月期 第2四半期実績	2023年3月期 通期予想	進捗率
<b>取扱高 (注)</b>	68,866 百万円	<b>170,000 百万円</b>	40.5 %
<b>売上高</b>	40,452 百万円	<b>95,000 百万円</b>	42.6 %
<b>営業利益</b>	1,444 百万円	<b>3,700 百万円</b>	39.0 %
<b>経常利益</b>	1,217 百万円	<b>3,700 百万円</b>	32.9 %
親会社株主に帰属する <b>当期純利益</b>	844 百万円	<b>2,500 百万円</b>	33.8 %

(※1) 連結業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算定しております。

(※2) 「取扱高」については、「収益認識に関する会計基準」等を適用しない場合における数値となります。

### 配当金推移

株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとしており、安定的な配当することを基本方針としております。営業・財務両面にわたる効率的な業務運営により、経営基盤の強化を図ると共に、新しい事業の開発などの資金需要に柔軟に対応しながら、連結配当性向35%を目標にいたします。



2023年3月期の連結業績予想の概要についてご説明いたします。

取扱高は 1,700億円

売上高は 950億円

営業利益は 37億円

経常利益は 37億円

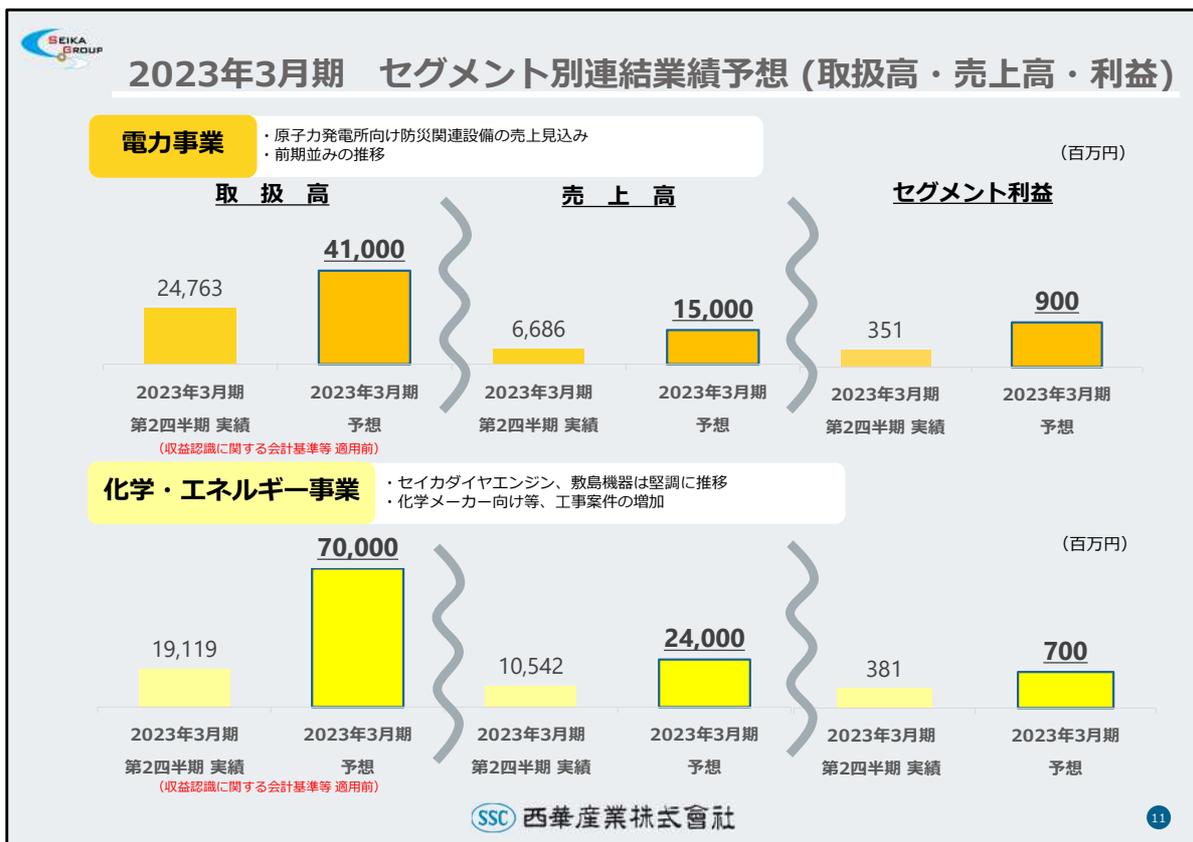
親会社株主に帰属する当期純利益は25億円を予想しております。

2020年4月から中期経営計画「Re-SEIKA 2023」に取組み、最終年度にあたる2023年3月期の数値目標は、営業利益37億円、当期純利益25億円を掲げております。現状のところ、この数値目標は達成出来るものと考えております。

尚、現進行期の配当金につきましては、配当性向35%を目処に中間配当35円、期末配当35円の年間配当金70円を予想しております。



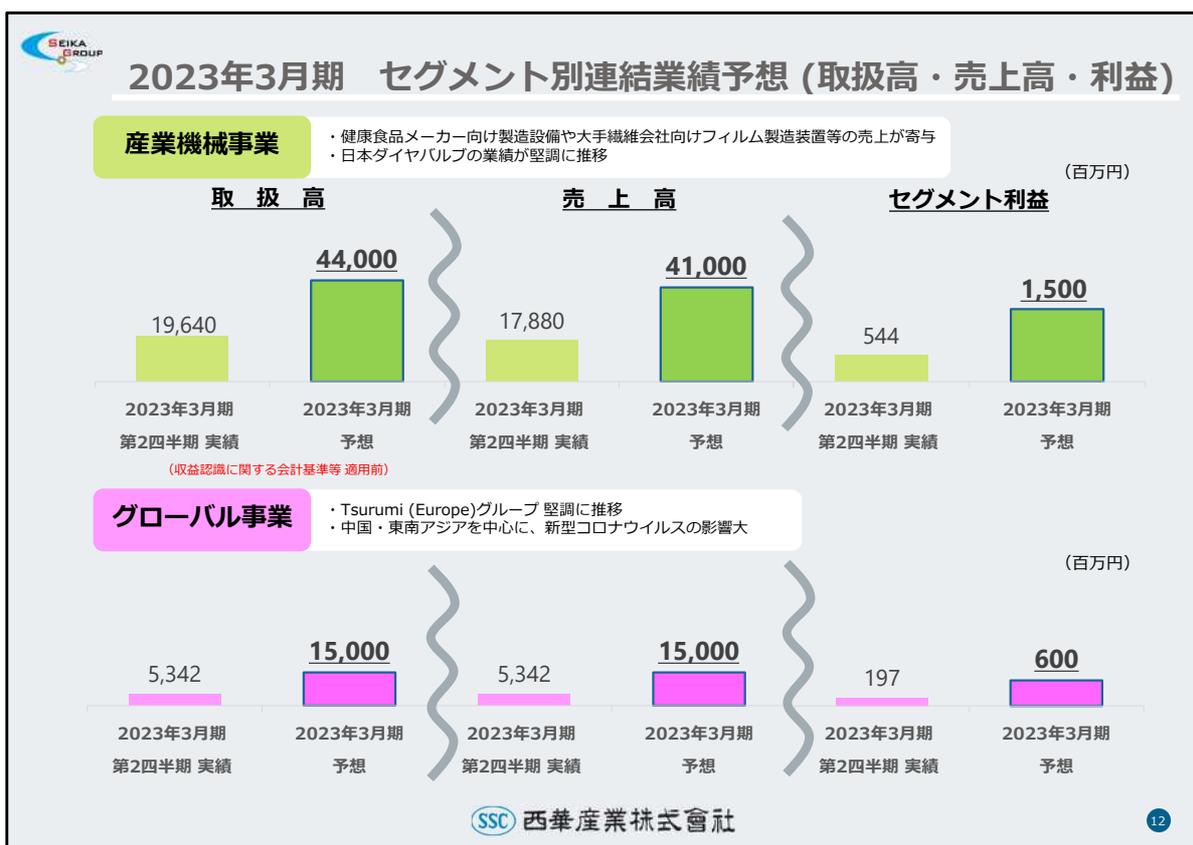
こちらは過去3カ年の推移となります。



次に、セグメント毎の売上高、利益の見通しについて簡潔にご説明をさせていただきます。

まず電力事業は、原子力発電所向け防災関連設備の売上が見込まれ、  
売上高 150 億円、セグメント利益 9 億円  
を予想しております。  
また、当セグメントにおいては、当社の事業規模を大幅に拡大させる新たな商権の獲得が見込まれ、来期以降業績に寄与すると考えております。  
正式に決定次第、公表させて頂きたいと思っております。

化学・エネルギー事業は、セイカダイヤエンジンおよび敷島機器の業績が前期には及ばないものの堅調に推移する事が見込まれ、  
また、化学メーカー向け大型工事案件による売上の増加が見込まれることから  
売上高 240 億円、セグメント利益 7 億円  
を予想しております。  
尚、既設発電設備のアンモニア混焼改造やCO<sub>2</sub>分離回収装置等、脱炭素関連商談へも積極的に取り組んでおります。



続きまして、産業機械事業は健康食品メーカー向け製造設備や大手繊維会社向けフィルム製造装置等の売上が寄与し、また日本ダイヤバルブの業績も引続き好調に推移する事が見込まれ、売上高 410 億円、セグメント利益 15 億円となりいずれも前期より増加を予想しております。現在日本ダイヤバルブは旺盛な受注に対応すべく、増産体制構築に向け検討を開始いたしました。また、前期出資いたしましたドローンビジネスは製鉄・化学会社等への採用が順調に進み、今後の収益に寄与するものと考えております。

最後に、グローバル事業です。中国・東南アジアの子会社は、新型コロナウイルスによる営業活動制限等の影響を受け、引続き業績の回復まで時間を要するものと考えておりますが、Tsurumi (Europe)グループは現進行期も堅調に業績が推移する見込みであり、売上高 150 億円、セグメント利益 6 億円と前年度並みの予想をしております。

## 2023年3月期 セグメント別連結業績予想

(億円)

	取扱高			売上高			セグメント利益		
	2022年 3月期 実績	2023年 3月期 予想	増減額	2022年 3月期 実績	2023年 3月期 予想	増減額	2022年 3月期 実績	2023年 3月期 予想	増減額
電力事業	395.4	<b>410</b>	+14.6	113.6	<b>150</b>	+36.4	11.9	<b>9</b>	△2.9
化学・エネルギー事業	367.0	<b>700</b>	+333	222.6	<b>240</b>	+17.4	7.4	<b>7</b>	△0.4
産業機械事業	415.2	<b>440</b>	+24.7	351.9	<b>410</b>	+58.1	11.4	<b>15</b>	+3.6
グローバル事業	164.9	<b>150</b>	△14.9	164.9	<b>150</b>	△14.9	7.3	<b>6</b>	△1.3
合計	1,342.6	<b>1,700</b>	+357.4	853.0	<b>950</b>	+97.0	38.1	<b>37</b>	△1.1

「取扱高」については、「収益認識に関する会計基準」等を適用しない場合における数値となります。

こちらは、セグメント毎の取扱高、売上高および利益予想の一覧表であります。



# 03

## トピックス

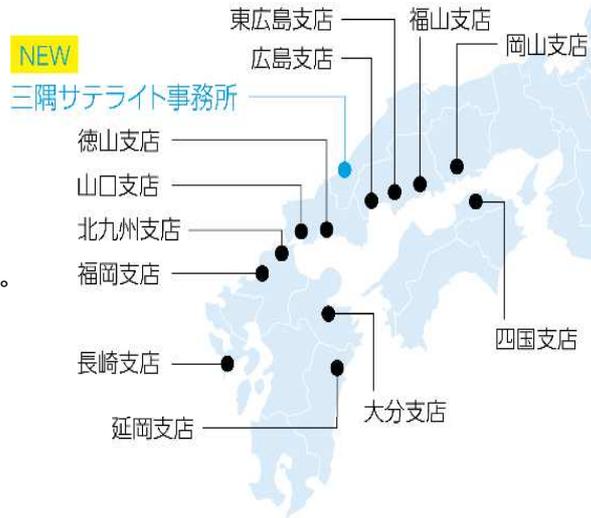
続いて、各トピックスについてご紹介いたします。

### 三隅サテライト事務所 開設

2022年10月に広島支店傘下の拠点として島根県浜田市に「**三隅サテライト事務所**」を開設いたしました。

中国電力株式会社をはじめとした島根県沿岸部のお客様へは、広島支店を拠点とした営業活動を行っていましたが、同サテライト事務所の開設によって**より機動的な営業活動が可能**となりました。

今後も、更なる機動性やサービス性の向上を図ってまいります。



当社は、10月19日に島根県浜田市に「三隅サテライト事務所」を開設いたしました。

中国電力株式会社をはじめとした島根県沿岸部のお客様へは広島支店を拠点とした営業活動を行っておりました。中国電力が三隅発電所に三菱重工業製100万kwのボイラー発電設備を増設し、本年11月1日より運転開始することもあり、より機動的な活動を目的として開設に至りました。

サテライト事務所は、商談の開拓や効率良い営業活動を展開することで、収益の拡大や向上に繋がるものと考えております。

## トピックス②

### 株式会社ユーグリードへの出資



ユーグレナ由来のナノ繊維「**パラミロン・ナノファイバー (PNF)**」を製造するベンチャー企業である株式会社ユーグリードに対し出資を行うと共に PNF の販売に係る業務提携を開始しました。

#### ユーグレナからナノファイバー



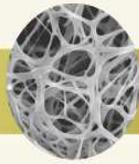
ユウグレナ  
(和名:ミドリムシ)

動物と植物の両方の性質を持つ微細藻類で、豊富な栄養素を含みます。



パラミロン

ユウグレナが体内に蓄えるβ-1,3-グルカンから成る多糖類で、高度な結晶構造を持ちます。5μmの均一な粒子サイズを有します。



パラミロンナノファイバー (PNF)

パラミロンから生成され、不純物を一切含みません。素材として有用な特性を有します。

- ✓ 自動車
  - ✓ 家電
  - ✓ 燃料電池等の電極材料セパレーター
  - ✓ 住宅・建材 等向け
- プラスチック強化複合材として幅広い用途に期待！

#### PNFとは・・・

- 自然由来のナノ繊維
- 鋼鉄の5倍の強度がありながら約1/5の重量
- 従来のCNFに比べて約1/4のコスト

続いてのトピックスです。

当社は、本年9月にミドリムシ、別名ユーグレナを原料とするナノ繊維「**パラミロン・ナノファイバー (PNF)**」を製造するベンチャー企業の株式会社ユーグリードに出資を行うと共に、販売業務提携をいたしました。

PNFは、鋼鉄の5倍の強度がありながら5分の1程の重量である特徴を持つ自然由来のナノ繊維で、自動車、家電、住宅・建材等向けプラスチックへの複合材として注目されており、既に多くのお客様よりお問い合わせを受けております。

地球環境と調和したサステナブルな製品の販売を通じて当社の持続的成長や成果に繋げてまいります。

### トピックス③ SMI 民間試験機関ACE社と業務提携契約を締結

#### 課題

- ・タイヤメーカーは自社の製品開発時に、磨耗や摩擦等のタイヤ特性を分析・評価するため、様々な自然環境下において、車の実走行による大掛かりなテストを実施。これには**多くの時間と費用やマンパワーが要求**される。
- ・タイヤメーカーへ材料を供給する素材メーカーも、同様の試験を実施する場合がある。
- ・近年、試験タイヤの破棄や磨耗粉の削減という**環境対策**もクローズアップされている。



Ueshima  
株式会社 上島製作所

- ✓ 車の実走行の代わりに、タイヤのサンプル片を使い、実走行をシミュレーション（ドライ、雨、雪の中でのスリップを再現）した磨耗や摩擦等の試験が可能。
- ✓ 簡易的にタイヤ性能を評価でき、且つ実走行試験データとの相関性に優れている。



摩擦試験機 (RTM)



- ✓ 上島製作所と北米販売店契約を締結。アメリカでの協業を開始。
- ✓ 上島製作所のデモ機を購入し、展示会へも出展。ACE社のデモルームにも設置。
- ✓ タイヤおよび素材メーカーへの総合的な商材供給等、ビジネスチャンスの拡大を図る。

SSC 西華産業株式会社



- ✓ タイヤ、化学メーカーが集中するオハイオ州アクロンに設立。
- ✓ ゴムをはじめとする様々な物理試験の受託、素材分析評価、コンサルティング業務を提供し、近年タイヤ・ゴム業界での知名度が著しく向上。
- ✓ 道路建設関連の素材試験にも対応し、社会インフラへの貢献にも広がりを見せている。

続いて、当社の米国子会社であるSEIKA MACHINERY INC.の取り組みについてご紹介いたします。

SMIはこれまで電子部品の基板実装設備を中心に展開しておりましたが、当社の長期ビジョン「V I O R B 2 0 3 0」の戦略にあるグリーンイノベーション商材の拡販のひとつとして、タイヤゴム試験装置の販売を開始いたしました。

近年タイヤ磨耗粉の削減という環境対策がクローズアップされており、各タイヤメーカーや素材メーカーは課題解決に取り組んでおります。

SMIは、米国タイヤ産業の中心地であるオハイオ州アクロンにラボを構える大手試験機関ACE社と業務提携契約を締結し、

ゴム試験機で有名な日本の上島製作所製各種ラボデモ機を本年8月に設置するなど、米国での販売体制を構築いたしました。

各タイヤメーカーや素材メーカーがデモセンターでの試験を進めており販売の機会も拡大しております。

既に在米大手タイヤメーカーへも実績が出来始めており、今後大きな期待をしております。

### レナテック社への出資

#### SDGs応援ファンド

株式会社レナテックの「メタロ・バランスがんリスクスクリーニング検査」事業を支援すべく、同社へ1,500万円を出資いたしました。

同検査は**安価で信頼性の高いがんリスク診断ツール**として、早期がんの発見に資する取り組みであり、SDGsにおける「目標3：全ての人に健康と福祉を」のテーマである、「あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し福祉を促進する」に該当すると判断し、出資を行いました。



### 高機能マスク 60万枚寄付

DR.C医薬(株)製ハイドロ銀チタン®不織布マスク約60万枚を岡山県、山口県、長崎県、北九州市、東京都共同募金会、ふーどばんくOSAKA、フードバンクTAMA、FUKUSHIMAいのちの水などへ寄付を行いました。

同製品は感染症・アレルギー疾患治療剤開発を専門とするDR.C医薬が、不衛生タンパク質、花粉内のタンパク質を水や二酸化炭素・窒素等に分解するハイドロ銀チタン®クリーン技術に応用した機能性マスクとなります。



DR.C 医薬

最後に、当社の社会貢献活動についてご紹介いたします。

当社グループは

“地球環境と産業発展のためにわたしたちが出来ることは”を主題に掲げる長期経営ビジョン「V I O R B 2 0 3 0」のもと、SDGs 応援ファンド 10 億円を設定しております。これはSDGs 推進に資すると判断される事業に対し出資等を行ない、活動を支援するものです。

その第一号案件として、株式会社レナテックの「メタロ・バランスがんリスクスクリーニング検査」事業を支援すべく、同社へ1,500万円を出資いたしました。

同検査は安価で信頼性の高いがんリスク診断ツールとして早期がんの発見に資する取り組みであり、SDGsにおける「目標3：全ての人に健康と福祉を」のテーマに該当すると判断し、出資を行いました。

また、DR.C医薬株式会社製ハイドロ銀チタン不織布マスク約60万枚を、公的機関や共同募金会等へ寄付いたしました。

これからも積極的に社会貢献活動へ取り組んでまいります。

将来の予測に関する注意事項：

本資料にて開示されておりますデータおよび将来に関する予測につきましては、本日現在入手可能な情報に基づくものであり、予測不能、若しくは不確定な要因により大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

なお、資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。

**本資料に関するお問い合わせ先**

企画部 Tel : 03-5221-7117  
E-mail : SMB076@jp.seika.com



以上をもちまして、2023年3月期第2四半期の決算説明を終了させていただきます。

株主・投資家の皆様には、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本決算説明につきまして、ご質問がございましたら、当社企画部が対応致しますので、お問い合わせ頂きますよう宜しくお願いいたします。

この度は、ご清聴頂きありがとうございました。

以上